【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成30年7月12日(2018.7.12)

【公開番号】特開2017-213262(P2017-213262A)
【公開日】平成29年12月7日(2017.12.7)
【年通号数】公開・登録公報2017-047
【出願番号】特願2016-110074(P2016-110074)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　17/70　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　17/70

【手続補正書】
【提出日】平成30年6月1日(2018.6.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
上部内壁面に円弧状に形成された鉛直方向に延びるネジ孔を有し、上方からロッドを受け入れ可能に開いたＵ字状の側壁を具備し、前記ネジ孔に閉塞体を取り付けて前記ロッドを保持する第１の空間を有する基部と、
前記基部から下方に延び、前記基部の下端と協働して骨要素を受け入れ可能な第２の空間を有するフックと、
前記基部に形成され鉛直方向に延びて前記第１の空間と前記第２の空間を連絡する貫通孔に移動可能に取り付けられる軸と、前記軸に取り付けられ前記軸の下端面よりも広い面積を有し前記第２の空間に配置されて、前記フックの一部と協働して前記第２の空間に受け入れられる骨要素を挟持する本体と、を具備する挟持体と、を備え、
前記貫通孔の軸は、前記ネジ孔の軸よりも前記フックの反対側に配置されていることを特徴とする骨固定装置。
【請求項２】
前記本体は傾斜可能に前記軸に取り付けられていることを特徴とする請求項１に記載の骨固定装置。
【請求項３】
前記本体の一部は、前記フックの反対側に有する前記基部の一端よりも突出していることを特徴とする請求項１又は請求項２に記載の骨固定装置。
【請求項４】
前記フックの先端は上昇していることを特徴とする請求項１～３のいずれか一項に記載の骨固定装置。
【請求項５】
前記本体は、前記軸に隙間を有して取り付けられ、この隙間による取付上のガタによって傾斜可能であることを特徴とする請求項２に記載の骨固定装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】

【０００９】
　すなわち、請求項１に記載の骨固定装置（Ｓ）は、上部内壁面に円弧状に形成された鉛直方向に延びるネジ孔（２７）を有し、上方からロッド（７）を受け入れ可能に開いたＵ字状の側壁（２３、２３）を具備し、前記ネジ孔に閉塞体（１５）を取り付けて前記ロッドを保持する第１の空間（２１）を有する基部（２０）と、前記基部から下方に延び、前記基部の下端と協働して骨要素を受け入れ可能な第２の空間（３１）を有するフック（３０）と、前記基部に形成され鉛直方向に延びて前記第１の空間と前記第２の空間を連絡する貫通孔（５１）に移動可能に取り付けられる軸（４５）と、前記軸に取り付けられ前記軸の下端面よりも広い面積を有し前記第２の空間に配置されて、前記フックの一部と協働して前記第２の空間に受け入れられる骨要素を挟持する本体（４２）と、を具備する挟持体（４０）と、を備え、前記貫通孔の軸は、前記溝孔の軸よりも前記フックの反対側に配置されていることを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
　また、請求項２に記載の骨固定装置は、請求項１に記載の骨固定装置において、前記本体は傾斜可能に前記軸に取り付けられていることを特徴とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
　また、請求項３に記載の骨固定装置は、請求項１又は請求項２に記載の骨固定装置において、前記本体の一部は、前記フックの反対側に有する前記基部の一端よりも突出していることを特徴とする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
　また、請求項４に記載の骨固定装置は、請求項１～３のいずれか一項に記載の骨固定装置において、前記フックの先端は上昇していることを特徴とする。
　また、請求項５に記載の骨固定装置は、請求項２に記載の骨固定装置において、前記本体は、前記軸に隙間を有して取り付けられ、この隙間による取付上のガタによって傾斜可能であることを特徴とする。